

クラブの過去 現在未来

DJ 沖野修也



おきの・しゅうや 1967年
生まれ。DJ、作曲家、執筆
家。世界30カ国120都市で公
演経験あり。



クラブで踊る若者(京都市内)

「ダンス」を理由とした風営法によるクラブ摘発が相次いでいることに、音楽家やアーティスト、利用者らの批判が広がっています。若者文化の発信基地となっているクラブとはどんな場所で、こういった魅力があるのでしょうか——今号から、クラブ文化について解説する連載「クラブの過去、現在、未来」(全5回)を始めます。執筆は、日本を代表するDJの沖野修也さんです。

皆さんは、“クラブ”という言葉からこういった空間を連想されるでしょうか？ クラブとは人が集

まって踊る所です。大きな音をならす音響装置があり、ダンスフロアがあり、ミラー・ボールが吊り下げられています。店内演出のため照明設備も常設されています。お酒ものめます。さまざまな色彩の灯りの中に人々の笑顔があふれ、肩を揺らし、腰を揺らし、思い思いの自由なダンスを楽しんでいます。ここまで説明で多くの方が抱かれる疑問が、ディスコと何が違うの？ ということではないでしょうか？

極端な言い方をするとディスコは“知っている曲を聴きに行く所”で、クラブは“知らない曲を聴きに行く所”なのです。もちろん例外はあったでしょうが、基本的に来店者は有名な曲で盛り上がりました。クラブでは、知っている曲で盛り上がることを前提としていません。むしろ、来店者は、DJが自分の知らない曲、しかも、聴いたことがないのに自分を楽しませてくれる曲をどれだけ紹介してくれるのだろうかということを求めています。来店者にとってクラブは、音楽情報を入手できるメディア的な空間であり、知的好奇心に応えるライブラリー的な価値があります。

=1= クラブとは？

一方、DJやアーティスト、デザイナー、パフォーマーにとっては、“表現”や“発信”を行なうクリエイティブな空間です。音楽イベントをはじめ、ライブやファッションショー、写真やグラフィック、映像アートの展示などのイベントが行われます。こうしたさまざまなイベントがトータルで“クラブ・カルチャー”と呼ばれています。クラブははじめから“未知なるもの”を受け入れる場所ですから、無名の新人のデビューや実験的な試みが可能になる訳です。

さらにクラブには、出会いを通じて、新たなアートやビジネスさえも産み出す力があります。

(続く)